

## ひらがな・カタカナ・漢字 マッチング

— たくさん字を書こう! —

①

川	山	一	石	木	水
		いち			
左	大	上	花	土	二
				つち	


イラスト入りのシートで読み仮名をマッチング

③

川	山	一	石	木	水
左	大	上	花	土	二
			はな		に

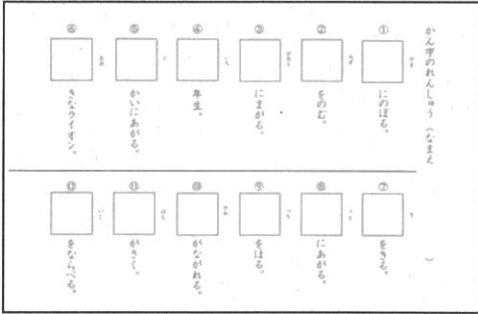
イラストなしのシートで読み仮名をマッチング

②



マッチングしている生徒の様子

④



最後にプリントで漢字の書き取り

### ○ねらい

- ・漢字の意味、読み仮名、書き取りを操作を通して学ぶことができるようにする。
- ・ひらがな、カタカナのマッチングを行い、スムーズに字を書くことができるようにする。

### ○教材・教具を使った実践例

- ・国語の授業で用いた。字を書くことをあまり好まない生徒が、操作を通して学ぶことで、主体的に学ぶことができるようになった。漢字の書き取りに対しても意欲的に取り組むようになり、日常生活でも読むことができる漢字が増えた。
- ・ひらがなとカタカナは書き取りではなく、なぞり字を用いて練習を行っている。マス点を点線で4分割することは、本生徒にとって有効ではなかったため、字の大きさを捉えることができる枠のみを用意した。字形を整えて書くことができるようにさらに工夫をしたい。

### 【材料】

- ・ラミネートフィルム
- ・マグネットシート
- ・ホワイトボード

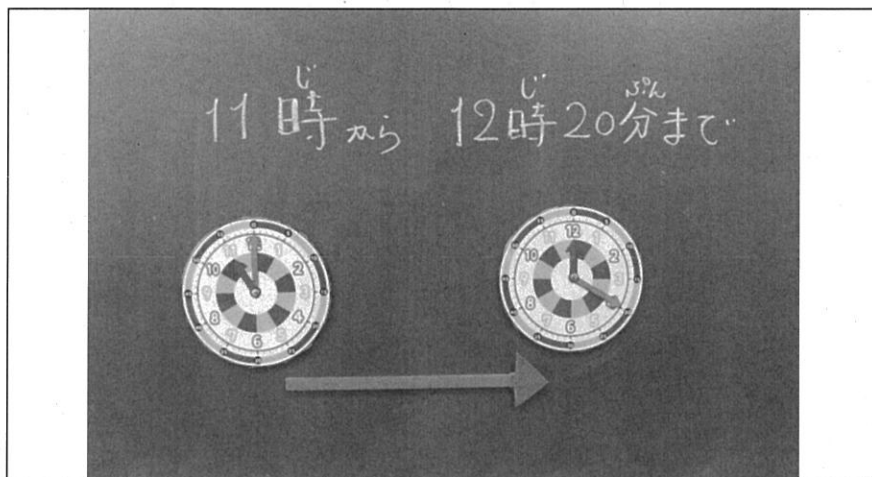
### 【制作方法】

- ①学習したいひらがな、カタカナ、漢字を書いた一枚のシートを用意する。
- ②①のシートにラミネートをかけて、読み仮名は一枚ずつ切り分ける。
- ③読み仮名は角を丸くする。
- ④シートと読み仮名にマグネットをはる。

(森 秀昭)

## 個別指導（算数・数学）支援サポートグッズ

## － 時計の学習 －



## ○ねらい

- ・自分で時計の針を動かすことにより、実感を伴った学習ができる。
- ・この教材教具を上図のように使って学習することによって、時間の進み方を意識しながら時計の学習がスムーズにできるようにする。

## ○教材・教具を使った実践例

- ・個別学習の数学の授業での時計の学習や他の課題学習時の活動の確認として用いた。
- ・教材の利点としては、実際に自分で時計の針を動かすことができるため、時間の進む様子が実感できる。数字がすぐ近くにあり、確認がしやすい。
- ・活動の始めの時間と終わりの時間とを見比べることができるため、活動への見通しをもつことにも効果が見られた。  
※黒板にマグネットで付けて使用したり、小型の書見台に立てかけて机上で使用したりしている。
- ・今後は、日常生活の他の場面にも活用できるように、改良して行きたい。

## 【材料】

- ・時計のイラスト 2枚
- ・印刷した長短の針 2本ずつ2セット
- ・留め金 2つ ・マグネット矢印 1本
- ・必要に応じて書見台

## 【制作方法】

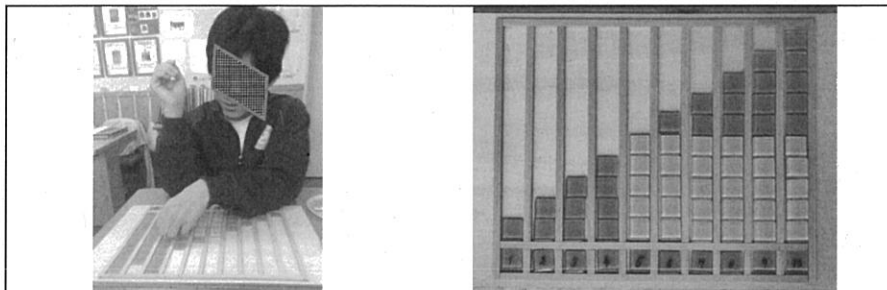
- ・時計のイラストをラミネートしたものを2枚作る。
- ・印刷した長短の針をラミネートしたものを2本ずつ2セット作る。
- ・留め金で針を固定する。
- ・時計の裏にマグネットシートを貼る。
- ・マグネット矢印を1本作る。

※必要に応じて書見台を用意する。

(大脇 知恵)

## 楽しみながら数に親しもう

－ 見て触って操作して、数量について考えよう －



### ○ねらい

- ・見たり触ったりして質感や操作を楽しみながら10の合成分解について理解を深める。
- ・枠にタイルをはめ込む操作を取り入れることで目と手の協応を高める。

### ○教材・教具を使った実践例

#### 【対象生徒】

学習への意欲や興味関心は高いが、音や周囲の動きなどの刺激に反応し、手元を見続けるのが難しかったり、気分が高揚してしまったりなどの課題がある。数学では、5の合成分解への理解はほぼ定着している。それ以上の数については、数唱はできるが、一対一対応については数が増えるとあいまいな部分も出てくるなど数量への理解はまだ定着に至っていない。

そのため、生徒の好きな色で視覚的に分かりやすく、触り心地のよい質感のタイルを用いて実際に操作を行いながら10の数や合成分解に親しむことをねらいとして本教材を作成した。本生徒は、外的刺激が多い場合は手元に集中することが難しいこともあるが、興味関心のもてる教材については、手先を器用に用いて操作性のある活動を行うことができる。それゆえに繰り返し自分で見て数えながら数に親しみ、自ら成果がわかり達成感が味わえるような教材を作成したいと考えた。

#### 【配慮点】

全体のタイルの色は生徒の好みの色を取り入れ、5の固まりは色の違いが際立ち視覚的に捉えやすい色を選んだ。1から10までの数が記されたタイルは生徒が自分でよく見て分かって並べられるように配慮して、枠で囲むようにした。5の固まりのタイルを作り、バラのタイルと5の固まりのタイルを差し替える操作を学習に取り入れることで、生徒自身で操作を行う中で5の固まりと10までの数量の関係性について理解できるように配慮した。生徒の両手の動きと目の協応の実態を考慮し、生徒が自分で見て触り、捉えやすい大きさのタイルや、机やタイルのサイズに合ったボード枠を作成した。

#### 【生徒の変化】

枠があることで、バラのタイルを数えながら並べたり、右から左へ一つずつ増えていく数と量の関係を自分で操作しながら確かめたりすることができた。5の固まりをバラの5と差し替える操作を理解することで、10の合成分解について理解を深め、ワークシート問題を解く場合にもタイルを活用しながら答えることができるようになった。

#### 【材料】

- ベニア板 (30cm × 45cm × 0.3cm) ・ホワイトボード
- ① 工作用木棒 2本 (0.8cm × 0.3cm × 28.5cm)
- ② 工作用木棒 3本 (0.8cm × 0.3cm × 33.0cm)
- ③ 工作用木棒 9本 (0.8cm × 0.3cm × 23.3cm)
- ④ 工作用木棒 9本 (0.8cm × 0.3cm × 2.5cm)
- 青タイル (2.3cm × 2.3cm × 0.3cm) 必要なだけ 桃色タイル (同左) 30個
- プラスチック板 6 (11.5cm × 2.3cm × 0.1cm)

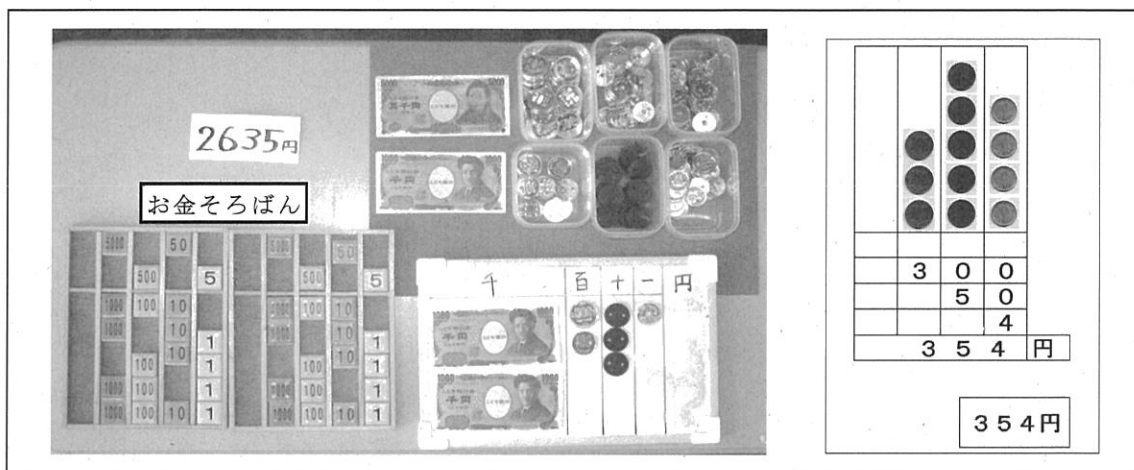
#### 【制作方法】

- ・ベニア板の上に上記の4種類の工作用木棒を組み合わせ、木工用ボンドで接着する。
- ・プラスチック板に桃色タイルを両面テープで5つ貼り合わせ、「5の固まり」を作成する。6つ作成する。

(雨宮 史歩)

## お金の学習

### — お金そろばんで確認しながら —



#### ○ねらい

- ・金額を見て自分でお金が用意できるように、位毎にお金そろばんを確認し、実際にお金を並べることができるようにする。

#### ○教材・教具を使った実践例

- ・買い物学習や校外宿泊学習の費用の学習の際に、お金の種類や名称が理解できるようになった生徒に、金額カードを読む、お金そろばんで千の位からお金タイルをそろえる、お金そろばんを見ながらお金模型をそろえる、金額カードを隠し、お金を見ながら金額を言うなどの手順で学習を進めたところ、金額カードを見てお金をそろえることができるようになった。
- ・お金そろばんで位取りを確認することで、実物のお金もそろえやすくなった。位取りが混乱する場合は、位毎に色を変えると分かりやすかった。
- ・お金そろばんの動かし方については、教師用を準備し、教師が動かし方を示範することで、生徒も同じように動かそうと模倣することができた。教師用の見本を置く位置は、横が難しい場合は、上の位置に置いたり立てたりすると更に分かりやすい。
- ・お金そろばんは、生徒の実態により、十や百の位までにしてもよい
- ・お金そろばんを学習した後は、更にプリントで確認すると確実になる。

#### 【材料】

- ・お金模型セット(2000円, 教材メーカー), お金ケース(200円, 100均店)
- ・ホワイトボード1枚マーカー付(100円, 100均店)
- ・タイル(100円×5, 100均店), 両面テープ
- ・木枠用5mm角材, 合板(480円, ホームセンター), ボンド

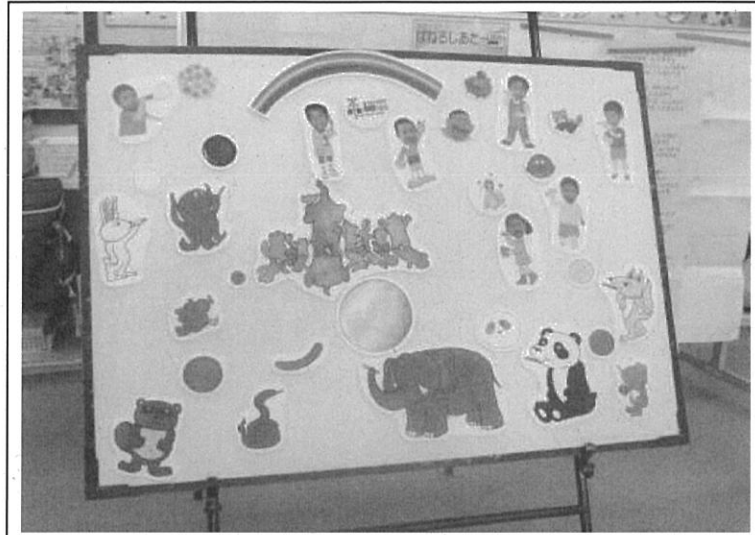
#### 【制作方法】

- ・お金タイルが入る大きさの木枠を2個作る。(教師用, 生徒用)
- ・お金タイルに, 1, 5, 10, 50等の数字シートを両面テープで貼る。
- ・お金は, 種類毎に分類してケースに入れておく。

(木村 千里)

## パネルシアター

### － みんなで楽しく「しゃぼんだまとぼせ」－



#### ○ねらい

「おんがく☆☆ 教科書32ページ『しゃぼんだまとぼせ』」

- ・パネルシアターとして提示することによって、児童がイメージを膨らませながら鑑賞することができるようにする。
- ・パネルシアターに、児童の顔写真を使用することにより主体的な学びにつながり、あそびの活動に意欲的に取り組むことができるようにする。

#### ○教材・教具を使った実践例

- ・小学部 低学年学級 音楽の中で、「鑑賞」の題材として取り入れた。3拍子のリズムに乗ってたくさんの動物が登場し、動物の特徴を表した、いろいろなしゃぼんだまができあがる教材であり、覚えやすい擬音の繰り返しを楽しむことができる教材である。
- ・パネルシアターで視覚的に提示することによって、動物の名前やしゃぼんだまの特徴がいつそうイメージしやすくなり、動物の名前を当てたり、しゃぼんだまの特徴を言ったりするなどの意欲が増す様子を見取ることができた。
- ・あそびと音楽の題材を関連付け、あそびの中にもパネルシアターを取り入れた。児童の顔写真を用いたパネルを作り、好きな物をしゃぼんだまにして提示することにより、児童が見通しをもち、しゃぼんだまの活動に意欲的に取り組むことができた。

#### 【教材】

- ・パネルシアター (1,720円, minnne.com)

#### 【制作方法】

- ・専用キットは、切り抜いて使う。バリエーションを増やす際には、Pペーパーにパソコンからダイレクト印刷を行い、切り抜いてパネルを作成した。

(前島 美香)

## 鑑賞感想ワードシート

## — 音楽編 —



## ○ねらい

- ・鑑賞した曲に自分なりの感想をもつことができる。

## ○教材・教具を使った実践例

- ・黒板に掲示したものを生徒が前に出て指さしながら発表した。
- ・一人ひとりに配布したプリントをもとに、生徒が自分の言葉を加えて感想を述べることができた。
- ・一人一人に配布したプリントを指さしてSTに知らせ、STが代読して発表することができた。
- ・一人一人に配布したプリントをもとに作文して、感想メモを残すことができた。

## \*ポイント

- ・異なる鑑賞曲でも、同じプリントを使用することによって、鑑賞曲の比較をすることができる。
- ・鑑賞曲の感想を自分の言葉で発表するきっかけとすることができる。
- ・初めはなんとなく選んだだけでも、他の生徒が発表する内容を聞くことによって、さらに自分らしい感想をもつことができる。

## \*今後の改善点

- ・キーワードとしてふさわしい言葉やイラストをよりわかりやすいものにする。
- ・使用場面や使用パターンを工夫し、記録として残したり、全体で共有したりできるようにしたい。

## 【材料】

- ・A4サイズの紙

## 【制作方法】

- ・イラスト画像を取り込み、感想ワードと合わせて表示した。

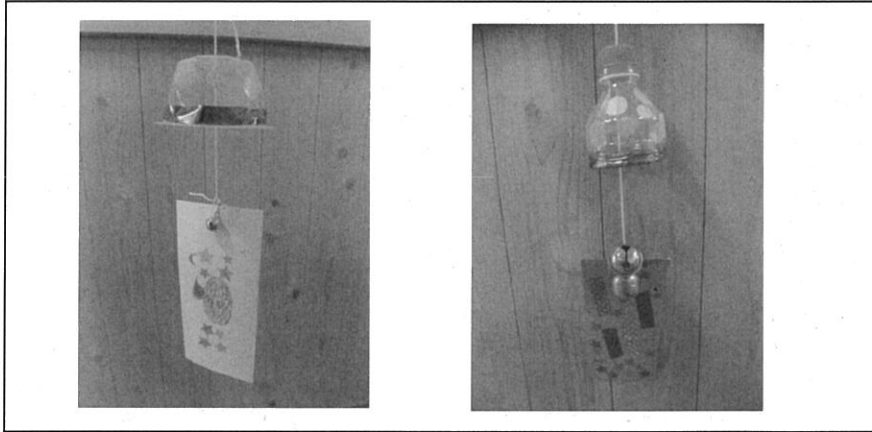
## 【使用方法】

- ・授業でポスターとして使用した。
- ・個人配布でも良いし、楽譜の一部に小さくカード式にして使ってもよい。

(石倉 礼子)

## 風鈴を作ろう

### — 風鈴の音で 涼しくなろう —



#### ○ねらい

- ・風鈴を作る時に手を使っていろいろな作業（切る、貼る、ひもを結ぶ、穴を通すなど）をすることによって、手の巧緻性を高めたり、目と手の協応がうまくできるようになりたりする。
- ・風鈴が夏の風物詩であることを知る。

#### ○教材・教具を使った実践例

- ・中学部の美術の時間に、2時間で制作した。1時間目(①～⑤)はそれぞれのパーツをつくり、2時間目(⑥～⑧)にパーツをひもでつなげて発表をした。

#### ① ペットボトルかカップを選ぶ。

ペットボトルを選んだ人は、線を引いて1/3くらいに切る。

#### ② キャップやカップの底の中央に穴をあける。

#### ③ ペットボトルの切り口やカップの縁に好きなテープを貼る。

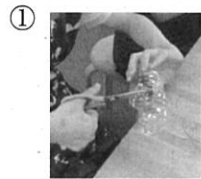
#### ④ ペットボトルやカップにテープやシールを貼って飾る。 ④

#### ⑤ 下の紙の部分の色画用紙を選び、絵を描いたりテープやシールを貼って飾る。 ⑤

#### ⑥ ビーズにひもを通して縛る。

#### ⑦ キャップやカップにあけた穴にひもを通して縛る。

#### ⑧ 紙の部分と鈴にひもを通して縛る。



- ・ひもを結んでパーツをつなげるところでは苦勞した生徒もいたが、貼り付けたり描いたりして自分のオリジナルの風鈴を楽しくつくることができた。
- ・今後の改善点は、あまりうまく鳴らなかったなので、風が吹いたときに鳴るように鈴の大きさや付ける位置について工夫する。

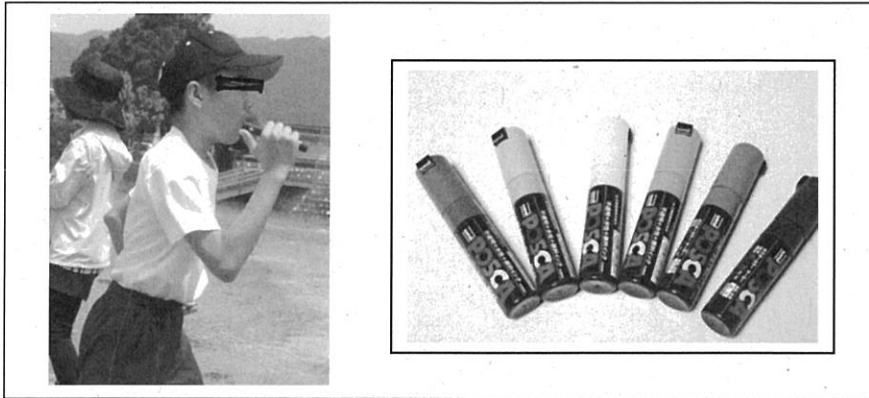
#### 【材料】

- |                  |              |        |      |
|------------------|--------------|--------|------|
| ・ペットボトル          | ・ゼリーやプリンのカップ | ・色画用紙  | ・シール |
| ・粘着タイプのキラキラしたテープ | ・ビーズ         | ・木綿のひも | ・鈴   |

(日向 美佳)

## 「カタカタ腕振り棒」

— お手軽教具！ポスカを使って、素早く真っすぐ腕を振ろう！ —



### ○ねらい

- ・短距離走の際，この教具を持ち，腕を振ることで，腕を素早く振ることの意識を高めることができるようになる。また，真っすぐな教具を持つことで腕の振りが真っすぐかどうかを自分で意識することができるようになる。

### ○教材・教具を使った実践例

- 保健体育の短距離走「50m 走」の授業にて，腕振り練習の際に，腕の振り方が弱い生徒や腕振りが横になってしまう生徒に対して使用した。
- 腕を前後に素早く振る練習をした後，この教具を提示し示範。強く振り抜いたところで，中の芯が本体に当たりカタカタと音が出ることを強調して説明。さらに教具が真っすぐであることも説明し，真っすぐ腕を振ることも意識できるようにし，腕振りの練習だけでなく，実際に持ったまま走らせてみると，腕を素早く振ることと真っすぐ振ることのイメージがもてた生徒もいた。

- 準備がほとんどいらず，手軽にできる。（働き方改革の視点でもOK）
- 蓋を外して描く行為に繋がらないよう養生テープで止めておくとよい。
- 腕を前後ではなく，上下に振っても音が出てしまうため，肘先のみ動かしてしまいう場合もある。あくまで前後に腕を振って音を出すことの説明を十分に行う。

#### 【材料】

- ・ポスカ（カタカタと中の芯が当たり音の出る太芯タイプがよい）

#### 【制作方法】

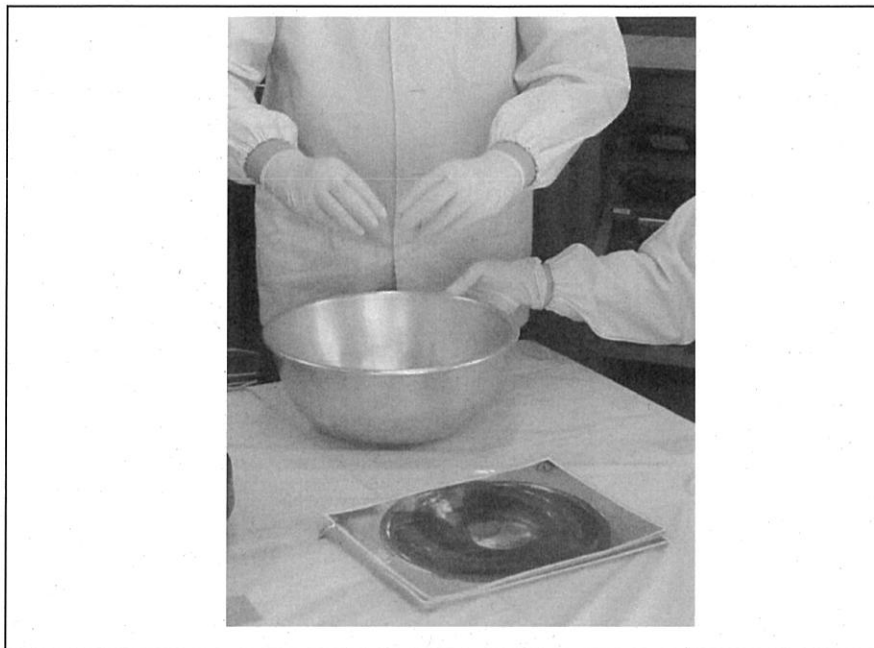
- ・蓋と本体部分を養生テープで固定する。

（波多野 浩史）



## 写真でわかる調理手順表

—自分で作れることを目指して—



### ○ねらい

- ・調理の手順を写真で見ることで自分で作れるようにする。

### ○教材・教具を使った実践例

- ・中学部の職業・家庭科で今年度は「お好み焼き」「ホットケーキ」「焼きそば」の調理手順表を作成した。示範の際に手順の写真を1枚ずつホワイトボードに貼り、説明を加えながら示範を行った。班ごとに分かれて調理を行う際、手元用にラミネートしてリングにまとめた手順表を各班に置き、グループ CT はそれを見せながら調理を進めた。自分の役割がくるまで、その手順表を眺めて待つことができたり、何番の手順まで行えば完成するのかという見通しをもって調理を行うことができたりした。
- ・学んだことを家庭で実践しようと思う生徒もいるため、家庭配布用も用意することで実生活に般化させたい。

#### 【材料】

- ・写真，ラミネート，リング

#### 【制作方法】

- ①調理手順の一つひとつを写真に撮る。（その際、他のものが写らないようにする。）
- ②A4またはB5サイズでカラープリントをし、ラミネートする。
- ③手順番号を書き、リングでまとめる。

(中島 香奈)